

朝鮮石人像を訪ねて (3)

深田 晃二

今回は神戸市内に有る石人像を訪ねる。既報(1)の所在地リスト内の3件と、訪ねて(2)の追加情報1件の計4件についてである。

★ 住吉山手・白鶴美術館隣徳本寺 ★

Morris. (森崎)さんの2007/6/12日乗に写真と一緒に載った情報を元に昨秋現地を訪ねた。



JR住吉駅から川沿いに坂道を登って白鶴美術館新館につくと大きな石に刻まれた美術館名の表示が現れる。その足元に忠魂碑の位置を示す小さな道標があり、それに従って50m程行くと徳本寺の境内にある忠魂碑が目に入る。その前に比較的小型の文人像が1体置かれている。住職に由来を聞こうとしたが、生憎彼岸で檀家回り中であった。たぶん住職は知っているだろうという若い娘さんからは何も聞き出せなかった。

像は波形の帽子をかぶった文人像1体である。後日、山下さんの旦那が早朝散歩で見かけた写真を送ってくれた。まさに同じものであった。

★ 住吉山手・白鶴美術館下マンション ★

白鶴美術館から5分ほど南西に下がった所にヴォーリズ建築の一つである優雅な洋館「小寺邸」があり、その前にH. H ミカゲというマンションがある。



その入口に一風変わった像がある。これも前掲 Morris. 情報をもとに訪ねた。

文人ではあるが、他の朝鮮石人像とは趣が異なる。帽子は

階段状というより布帽(ボム)そのものであり、手には笏をもっているように見えるが、手は服の袖で覆い隠されている。この像は表面の新しさから見て美術品としての新造品と思うが、八の字髭を生やしたいかめしい顔から、武官の装束の上に錦・繍などで作った袖のない「両襠(りょうとう)」と呼ばれる衣類を着けた武人像の可能性も残っている。今後の課題である。

この石像についても後日談がある。このマンションが建つ前の家に山下さんがピアノを習いに行っていた。そのときは2体あった。ピアノの先生の名前も覚えておられ、某大学の先生であると言う話から、信長さんの基督教の知り合いの名前と合致し信長さんから先方に残り1体の行方を尋ねてもらった



が判明しなかった、という因縁話である。

★ 神戸垂水・舞子墓園 ★

寺岡さんの情報を元に舞子墓園の武藤家の墓を訪ねた。1894年に鐘淵紡績に入社、1921年に社長に就任した武藤山治(1867～1934)の墓所。1924年には衆院議員になっている。昭和の同姓同名の社会党議員とは違う人で「やまはる」と読む。

墓所は特別区画にあり、専用の取付け道が200m程ある。竹で垣根が作っておりその入口の木戸の前に赤茶色のこけが付いた年季の入った望柱石が2基建っている。2基ともリスの陽刻はない。

中に入ると5層石塔を守るように2体の石羊が配置されている。



管理事務所でこれらのいわれを訪ねたが、個人所有で有り詳細は解らないとのことであった。

★ 新神戸・徳光院 ★

尹達世さんの情報で、新神戸駅北にある大圓山徳光院という寺を訪ねた。新神戸駅新幹線のガードをくぐって布引の滝へ行く道の最初の橋(砂子橋)を渡ってすぐ右に曲がり、きつい坂道を10分ほど歩くと着く。川崎造船所(現川崎重工業)の創始者の川崎正蔵(1836~1912)が1906年に開基した寺で、徳光院市民公園として神戸市民の憩いの場となっている。この寺の多宝塔は兵庫県で最古、神戸市内唯一のもので重要文化財の指定がある。

ここでも住職は春の彼岸で不在であり、出てきた女性にパンフレットを頂いた。多宝塔の前の石のドーム上の仏様は朝鮮ゆかりの物だとお聞きした。こ



この像の左右に石人像2体が据えられている。どちらも縦縞帽子をかぶった文人像である。

この2体の帽子は正面から見ると冠(カン)で縦縞模様だが、側面・後面は波形模様が彫り込んである。(写真)



これまで見てきた縦縞模様の冠ではこのような横・後の波模様は無かったので、今回新発見である。

このことから類推すると、正面の

波形模様は「縦縞の使用資格はないが全体的にそれに模した物にした」物ではないかと推測される。



↑ 上左の像の横・後の模様



東門から入って本堂に向かう階段の入口左側に小振りな望柱石1基がある。下に走るリスの姿が東面に陽刻されている。右側には「不許葦酒入山門」碑が立っていて禅宗のお寺であることを示す。

★ 石人像所在追加情報 ★



1. 京都・南禅寺(市立動物園南側):「京料理南禅寺ギンモンド」と言う料亭の入り口右手に石人像が立っている。童子像1体<水野直樹>
2. 東京上野法隆寺宝物殿:博物館後方の庭園は整備中で入れないので、しかたなく法隆寺宝物殿へ行く。そしたらその近くの園内に文人像1体<JIRON AMOS>
3. 兵庫山芦屋:滴翠美術館の入口を覗いたら庭に見覚えのある石像があったので、デジカメで撮りました。武人像1体<森崎和夫>
4. 神戸市中央区野崎通:「春日野会病院」になっ



ているが、元は南蛮美術館の生みの親、池長孟の邸宅だったそうです。玄関の石段の両脇に羊の石像がありました。<森崎和夫>

尚、桃谷コリアタウン(御幸森商店街)の石像は、「トルハルバン」像と「ホンジョオプソ(歓迎の気持ちを表す済州島方言)」の表示のある男女石像であり、墓地関連の石人像は見あたらなかった。

★ 石人像所有者の共通点 ★

これまでに12ヶ所の石人像を見てきたが、大正から昭和初期にかけて成功した実業家が収集したと思われる事例が数多く見受けられる。現地調査で由来を判明させることは非常に困難であるから、個々人が書き残した自伝なり伝記などから、半島から持ち帰った経緯について調査することが有効であろうと考える。今後はその方面からの調査も加味していくこととする。

(続)